

地方独立行政法人福岡市立病院機構
令和7年度第1回理事会 議事録（要旨）

- 日 時：令和7年4月23日（水）15:50～17:20
- 場 所：こども病院 講堂
- 出席者：堀内理事長（議長）、楠原副理事長、瓜生理事、神坂理事、平田理事、
柳澤監事 [欠席：石橋理事、近藤監事]
- 議 事

1 両病院における経営改善活動等について

＜概要＞

両病院における経営改善活動等についての説明を事務局より行った。

【報告事項】

1 令和6年度業務実績報告書（案）について

＜概要＞ 令和6年度に係る業務実績報告書（案）について、事務局より説明を行った。

（主な取組）

《医療サービス》

【良質な医療の実践】

○（こども病院）「コロナ患者の入院受入れ実施医療機関」として、コロナに係る小児救急医療の提供、「福岡県母体搬送コーディネーター事業」の中核病院として、緊急母体搬送症例を積極的に受入れた。また、たけのこ外来における、移行期支援の実施、医療的ケア児のレスパイト入院の受入れ、「こどもアレルギーセンター」において、食物アレルギー、喘息及びアトピー性皮膚炎の成人移行支援パスの作成を開始した。新たに抗インフルエンザウイルス薬のフォーミュラリを作成し、エビデンスと経済性に基づく小児薬物治療の更なる適正使用を図った。患者の包括的な成長・発達支援及び入院生活支援等を目的として、令和6年4月にこども支援室を設置した。

○（市民病院）。コロナについては病床確保が終わり、令和6年度は通常通りの病棟運用に戻った。引き続きコロナやインフルエンザ等感染症への対応を継続しながら高度専門医療・救急医療の安定的な提供に取り組んだ。

医師の働き方改革の影響により、他施設で受け入れが出来なかった救急患者の搬送が増加したが、軽症の患者が増加したことで、救急搬送患者の入院率は目標をやや下回った。

リウマチ・膠原病内科を設置し、「遺伝性血管性浮腫（HAE）」の専門外来を開始するとともに、広く全国の患者に対応できるようオンライン診療を開始した。循環器内科においては、CTの画像からAIによる解析を行うことで心臓カテーテル検査を行うことなく狭窄を調べることができるFFR-CT、FFR アンギオといった患者の負担軽減となるような新しい技術の導入を積極的に行った。消化管外科・肝臓外科については、腹腔鏡下手術などの高度な手術件数が増加した。また、脳卒中・循環器疾患について、医師と救急救命士が同乗して紹介元医療機関に病院搬送車で迎え搬送に行く試みを開始し、開業医からは大変好評を得ている。

救急患者の受け入れ態勢については、救急委員会において、救急不応需となった一覧表などの資料をもとに、受け入れ態勢やスタッフの負担軽減等について協議し「断らない救急」の徹底に取り組んだ結果、救急搬送件数は目標値を上回った。

【地域医療への貢献と医療連携の推進】

○（こども病院）病病・病診連携や在宅医療・小児慢性特定疾患における多職種連携を推進するとともに、地域の医療従事者への教育研修等を通じた地域医療への貢献に取り組んだ。在宅医療を担う医療機関等の人材育成を目的とした小児等地域療育支援病院研修会や特別支援学校の職員を対象とした研修会を開催するなど、県の小児等在宅医療推進事業の拠点病院としての役割遂行に努めた。前方連携の強化を目的として、登録医宛にニュースレターを送付し、こどもアレルギーセンターに関する情報提供や当院の取組、研修会等の案内を行った。

○（市民病院）東部オープンカンファレンスを今年度は4回開催し、外部から延べ167人の参加を得た。また、今年度も連携先医療機関への積極的な訪問を実施し、情報共有を行った。

看護師の特定行為研修についても、外部からの受講生と合わせて3人で開講し無事全員が修了した。

地域包括ケアシステムにおいては、入院前からの多職種による早期介入を行い、在宅療養支援の充実に取り組むとともに退院前カンファレンスを積極的に実施した。紹介元医療機関への迎え搬送もより安心安全な医療連携に貢献している。

【災害・感染症等への適切な対応】

- （こども病院）各種訓練を実施し、大規模災害訓練として、高潮災害を想定した発災前から発災後復旧までの、各部署における災害タイムラインの作成から検証を主体とした訓練を実施し、職員の防災意識及び対応力の向上を図った。BCP（事業継続計画）における高潮避難計画の更新など、災害発生時の万全な対応を行った。高潮災害に備え、非常用発電機用の燃料ポンプ室の防水工事を行うなど、施設・設備の減災に係る取組を行った。
- （市民病院）災害発生に備え緊急時参集システムを使用した災害時参集訓練を2回実施するとともに、BCP（事業継続計画）や災害時の患者対応フローの見直しを行った。また、3月に博多消防署との合同消防訓練を開催し、はしご車による患者搬送などより実践的な訓練を行った。12月にはMER S（中東呼吸器症候群）疑似症患者の発見を想定し、福岡空港検疫所支所、福岡市保健所との合同訓練（机上・実動）を行った。JPTEC、MCLSに講師派遣を行った。感染管理認定看護師の段階的な増員を検討しており、今年度は令和5年度に資格を取得した認定看護師1名を新たに専任配置した。また、もう1名が令和7年度中に資格試験を受験する予定である。

《患者サービス》

【患者サービスの向上】

- （こども病院）外部の弁当宅配サービスを開始し、入院付添者の利便性の向上を図るとともに、患者本人向けの退院時アンケートを開始するなど、患者及び患者家族の要望をより反映できるよう体制を強化したほか、入院中の子どもと家族のための家族写真撮影会を開催するなど患者サービスの向上に努めた。
また、患者及び患者家族の利便性の向上を図るため、スマートフォンアプリを利用した患者呼出システムの本格運用を開始した。NICU及びGCUの窓ガラスへの遮光カーテンや遮光フィルムを取り付けるなど、患者の療養環境の改善を図った。
- （市民病院）患者満足度調査を毎月実施し、職員の接遇に関する指摘等に対しては、当該職員及びその所属長へフィードバックして指導を行うなど、改善を図った。外来アンケートにおいて指摘を受けたため、クレジット端末を1台増やし改善を図った。また、患者からの指摘・意見に対しては「病院へのご意見・ご要望」と題した該当部署からの回答を院内各所へ掲示した。
患者・家族等からの医療・福祉に関する相談等について、患者サポート相談窓口を中心に適切に対応した。
病棟内の療養環境改善のため、床頭台のテレビの更新、病棟デイルームへのパーテーションの設置を行った。
福岡市が進めている分身ロボット「OriHime（オリヒメ）」を活用した実証実験に協力し、外出が困難な重度障がい者等4人が交替でロボットの遠隔操作による総合案内業務を実施した。

【情報発信】

- （こども病院）情報が探しやすいホームページとなるよう改修を行うとともに、「こどものページ」の充実を図るため、プレパレーション動画を新たに5つ作成・公開した。昨年度に引き続き、CGGプログラムの開催2回など地域への情報発信を積極的に行った。多くの子育て中の保護者に、子どもの病気や正しい対処法等の情報を届けることを目的として、専門医による新聞コラム掲載した。「こどもアレルギーセンター」において、アレルギー疾患の知識向上を目的とした講演会を計3回開催し、152人の参加があった。
- （市民病院）SNSの活用としてInstagramの利用を開始し、感染症予防や脳卒中の早期発見、職員採用に関する情報発信を行った。出前講座を今年度も開催した。市政だよりや西日本新聞、読売新聞に当院の記事が掲載された。

《医療の質の向上》

【病院スタッフの計画的な確保と教育・研修】

- （こども病院）「Fukuka CHOPPS」や「病院説明会・見学会」を開催し、意欲ある人材の確保に努めた。また、他施設の新人看護職員を対象にした研修の開催など、小児専門病院としての役割遂行に努めた。

さらに、資格取得支援制度の活用を促進し、「皮膚・排泄ケア認定看護教育課程（A課程）」について1人の受講が終了したほか、令和7年度特定行為研修（集中治療）の受講が1人、認定看護師養成課程「感染管理」B課程の受講が1人決定した。また各種学会や研修の費用、診療放射線技師、臨床検査技師及び臨床工学技士の告示研修の受講に係る支援を行った。

- （市民病院）看護師について、育休・産休代替として派遣会社を活用し看護師確保に努めた。また、採用活動にあたっては、外部の説明会への参加や、看護部作成のPR動画を活用するなど積極的に取り組みを行った。

医師の働き方改革への対応としては、リアルタイムで時間外労働時間を把握しながら、コアメンバー会議にて協議を行うなど適正な労働時間管理を実施した。また、ワークライフバランス推進委員会により引き続き有給休暇の取得率向上に向けた周知活動に取り組むなど、職員がやりがいや充実感を感じる職場環境づくりを推進した。

職員への外部研修の積極的な参加を促進した。認定看護師等資格取得支援制度を活用し、職務に必要な資格取得や研修受講を促進した。

【信頼される医療の実践】

- （こども病院）地域の医療機関とのカンファレンス等を実施し、感染防止対策の強化を図るとともに、医療安全についても、Team STEP S推進の研修会及び全職員を対象とした指差し呼称キャンペーンの開催等により、医療安全対策の強化を図った。

病院機能評価の「期中の確認」や院内のケアプロセス形式監査の実施など、病院機能評価で明らかとなった課題に対する業務改善に継続的に取り組んだ。また、引き続き一般病棟に薬剤師を配置し、医療安全の確保や医師及び看護師の負担軽減を図った。

- （市民病院）院内感染対策については、感染症専門医を中心に、他病院との共同カンファレンスや相互ラウンド等を通じて情報交換や相互評価を実施した。医療安全対策についても、地域連携ネットワークにおいて相互評価を実施した。

クリニカルパス専任看護師の配置により、クリニカルパスの積極的な活用を促進し、患者中心の医療の実践を推進した。病院機能評価について、令和7年度受審に向けた取り組みを開始した。

《自律性・機動性の高い運営管理体制の充実》

- 法人運営を的確に行うため、理事会を、Webを活用しながら10回開催し、理事会の決定方針に沿った自律的な運営を行った。両病院長のリーダーシップのもと、執行部会議や経営五役会議等を定期的に開催し、迅速な意思決定、情報の共有化を図るとともに、機動性の高い病院経営に取り組んだ。また、法人戦略会議を設置し、経営アドバイザーを活用した各病院の収支の分析を行い、収支改善に向けた課題の洗い出しを始めた。

「企画情報推進室」において、各病院の病院情報システムのサイバーセキュリティに関するBCPの策定やDX（Digital Transformation）の推進等について、一体的にマネジメントするとともに、全職員を対象とした情報セキュリティ研修を実施した。

- （こども病院）戦略的分析チームにおいて、スマートフォンの導入による業務効率化の検討を開始した。

- （市民病院）要約機能があるAIボイスレコーダーを導入し、議事録等の作成時間を短縮することが出来た。

《事務部門の機能強化》

- 市立病院の運営に必要なノウハウ等が蓄積されるよう、経理担当者会議等を行った。

マネジメント能力の向上等を目的として、主任級及び係長級への昇任者及び昇任後5年目以上の職員や課長級及び部長級職員を対象とした研修を実施した。両病院において、中堅職員を研修等に参加させるなど、事務職員の能力向上に努めた。

《働きがいのある職場環境づくり》

- 子の看護休暇等制度の取得事由の拡充検討、介護離職防止のための相談体制の整備など、安心して働き続けることができる制度の充実に取り組んだ。

- （こども病院）福利厚生や育児・介護等の支援制度を周知する総務課通信の発行や看護師による医師のタスクシフティングに取り組むとともに、薬剤師、臨床工学技士による看護師のタスクシフティングに積極的に取り組ん

だ。

- （市民病院）6月に日当直の医師と研修医を対象に二交代制を導入するとともに看護師、臨床工学技士及び放射線技師による新たな医師のタスクシフティングに取り組むなど医師の負担軽減を図った。また、看護師については、各病棟に専属で配置したクラークによる看護師のタスクシフティングなど負担軽減に取り組んだ。

- 機構全体として、「心の健康づくり計画」について見直しを行い、「第2次心の健康づくり計画」を策定した。

5年度からハラスメント防止に向けた意識醸成を図るため、全職員を対象とした研修を実施しているが、令和6年度にパワー・ハラスメントによる懲戒処分事案が2件発生し、患者様等の信頼を損なうこととなったことは大変遺憾である。このため、課長級以上を対象として、マネジメント強化等を目的とした研修を新たに実施するとともに、こども病院で設置していた外部の相談窓口を法人全体で活用できるよう拡充し、再発防止に取り組んだ。

医師及び管理職を対象とした人事評価制度については、引き続き評価結果を業績手当へ反映するなど職員のモチベーションの維持・向上を図った。

《法令遵守と公平性・透明性の確保》

- 管理監督者に対するコンプライアンス研修やハラスメント研修などの実施により、服務規律指導の徹底や行動規範と倫理観の確立に努めた。

個人情報保護法に関する研修や監査を実施するとともに、全職員を対象に情報セキュリティ研修を開催し、教育を徹底するなど適切に対応した。また、カルテ等の開示請求に対しては、診療開示委員会で適切に開示の可否を決定した。

《持続可能な経営基盤の確立》

- （こども病院）執行部会議や運営会議を定期的に開催し、令和6年度に行われた診療報酬の改定によるP I C U等の入院管理料の取り下げ等の厳しい状況に対して、効率・効果的な病院経営について検討を重ね、対策に取り組んだ。

- （市民病院）令和6年度診療報酬改定で、入院料に係る施設基準がより厳しくなったが、新規入院患者の確保や救急搬送件数の増加に取り組むとともに、急性期を脱した患者の転院・退院調整についても積極的に行い病床の稼働率維持を図った。これらにより病床稼働率は上半期84.8%、下半期88.2%と令和5年度から引き続き改善傾向にあり医業収益も増加した。

- 収支改善により生じた利益については、投資計画を踏まえた今後の投資財源の確保を図り、効果的な投資を行った。

《収支改善》

【収益確保】

- （こども病院）病院幹部で構成される執行部会議において、効率的な病棟運用の施策を講じるとともに、院内に設置した経営改善チームを中心に、収支改善に向けた課題を洗い出し、積極的に改善策の実行に努め、各種補助金の申請事務を適切に行うなど、収益の確保を図った。

施設基準管理ソフトを活用し、施設基準の維持管理を図るとともに、診療報酬請求業務の更なる精度向上に努めた。

- （市民病院）副院長をリーダーとする「病床管理会議」を毎朝開催し、病床利用率の向上と重症度、医療・看護必要度の維持に向けた様々な取組について情報共有を行った結果、診療報酬改定で6月から変更された基準でも一般病棟の重症度、医療・看護必要度を維持することができた。令和6年度診療報酬改定にあたり、施設基準管理ソフトを活用して、既存並びに新設の届出への対応を滞りなく行った。特にC C Uについては上位基準であるハイケアユニット入院医療管理料1の届出を可能とした。また、レセプトチェックシステムのカスタマイズを適宜行うとともに、診療科毎のカンファレンスに事務職員が参加し、レセプトの請求精度向上に取り組んだ結果、前年度査定率が改善した。

今年度より、診療科カンファレンス等で周知した内容を研修動画としてまとめ、視聴後にテストを実施することで理解度を図る試みを開始した。未収金については、マニュアルに沿って、段階を経た督促や分納相談等によ

り確実に回収を行うとともに、回収困難案件については法律事務所への業務委託を継続し、確実な回収を図った。

【費用削減】

- （こども病院）労務管理システムの活用により、事務業務の効率化を図った。診療材料について、市民病院と同種同効品の統一を行うなど、両病院の診療材料委員会を中心に徹底した価格交渉を行い費用削減に取り組んだ。

計画に基づいた適切な管理を行い、建物・設備の長寿命化及び維持・修繕費用の削減を図った。また、PFI事業期間終了（令和12年（2030年）11月30日）以降の施設・設備の管理手法のあり方について、先行して進めている他病院へ照会を行うなど検討に着手した。

- （市民病院）手術時の麻酔に関する説明動画を作成し活用することで、医師と看護師の患者説明に関する時間について、1カ月あたり約20時間の削減ができた。

SPD事業者と連携し、ベンチマーク分析をもとに、診療材料に係る価格交渉を実施した。また、こども病院と診療材料費削減プロジェクトを立ち上げ、共通品や同種同効品の価格統一を行うなどの活動により、約500万円の価格削減見込みとなった。

中長期修繕計画に基づき、大規模修繕ではなく経年劣化に伴う設備の維持・修繕を行うことで、費用削減を図った。省エネルギー推進委員会にて、院内の照明について検討し、基本的に全て蛍光灯からLEDへ変更する計画を策定した。

《福岡市立こども病院における医療機能の充実》

- DPC公開データにおいて、川崎病について、成人を含む全国のDPC病院の中で症例数が9年連続で全国1位となるとともに、前年度まで8年連続全国1位であった複雑な先天性心疾患に係る難易度の高い手術症例については全国2位となるなど、順調に成果を上げた。また、科研費などの臨床研究へ積極的に取り組んだ。

国際医療支援センターを中心とした外国語研修の開催、臓器提供に係る講演会・シミュレーションの実施、県内大型商業施設に支援自販機を設置した。

《福岡市民病院における経営改善の推進》

- 福岡県と改正感染症法に基づく医療措置協定を締結し、感染症発生時は病床確保、発熱外来の設置、人材の派遣を行うこととした。令和6年度はインフルエンザ・コロナについて重症化リスクのある患者の積極的な受入を行った。コロナの影響による病床確保がない年度となり、紹介患者及び救急患者の受入を強化した結果、病床稼働率は上期84.8%、下期88.2%と令和5年度下期の80.4%を大幅に上回り、医業収益も増収となった。

職員の処遇改善による給与費の増加や物価高騰の影響により収支は厳しいものとなったが、医業収支比率・経常収支比率は目標を上回った。

今後は、あり方の検討状況を踏まえながらAIを用いたプログラム医療機器などの導入により高度でより安全な医療の提供を行いながら、医師・看護師を中心とした医療DXにより経営の効率化を推進していく予定。

中長期修繕計画に基づき、大規模修繕は実施していないが、厨房の地下給水配管からの漏水への対応、重油流出への対応等適切に実施した。

＜主な意見等＞

特になし

2 経営強化プランの策定について

＜概要＞ 第5期中期計画を策定したことに伴い、今回、福岡市より公立病院経営強化プランの策定について変更点を含め連絡があったことについて事務局より報告を行った。

＜主な意見等＞

特になし